

講評と対策

平成28年度

四天王寺中学校

入学試験問題



国語

※設問の都合で、一部省略した部分がある

問題内容

配点

出題の意図

一 『ほこらの神様』
富安 陽子(偕成社)

52点

小学校五年生のぼくは秘密基地に隠したほこらの御利益の有無を確認するため、弟の直也にお願いをさせる。その時の二人の心情を読み取る。

二 『ふしぎなふしぎな子どもの物語』
ひこ・田中(光文社新書)

32点

テレビ放映された『アルプスの少女ハイジ』に注目し、ハイジの役割とは何かを読み取る。

三 『普通がいいという病』
泉谷 閑示(講談社現代新書)

36点

〈生きているもの〉とはどのような状態をいうのかを詩や引用文を参考にして確認していき筆者の考えを読み取る

各問題講評

【書き取り】

●多かった誤答は

二 問1 「預金」の「予」、「展開」の「展」に一本ハネが多かった。正答率80%

三 問1 「飛んだ」「豊んだ」(富んだ)、「過限」「過減」「加限」(加減)、「捨」(捨)。「富んだ」は文章中の意味を正しく捉えられなかったように思われる。正答率80%

【抜き出し問題】

●小説は、本文と選択肢の心情を表すことばをチェックする。

一 問2 「秘密」である時どのような行動をとるかを問う設問。正答率50%

問4 夕暮れの情景描写を抜き出す設問。夕暮れの情景ではなく、穴の暗さを抜き出している答案が見られた。正答率95%

問6 多かった誤答は「不思議な音」。正答率85%

問7 (1)設問をよく読んでいないようで、「半分、ホツとした安堵した時の心情が問われているのに、「半分」を読み落としていたり、理由を答えているものがいた。「～から」に気を奪われたのかもしれない。正答率60%

(2)多かった誤答「不安な」「期待する」。語彙が少なく、適切なことばを選ぶことができなかったこと、(1)の解答の残り半分を答えなければならないので(1)を間違うと正解が出せなかったようだ。正答率35%

問9 「気持ち表れている動作」を問うているので、動作であることと、傍線部に適応した箇所かどうか。正答率50%

二 問7 問は背景にある思想を聞いているのに、言い換えた箇所を答えているものが多く見られた。正答率55%

三 問8 傍線部「大前提」の意味を理解できていない。多かった誤答「即興を大切にしている」「ある種の即興性」正答率50%

【客観問題(選択肢)】

●語感をしっかり捉え、微妙な違いを理解する。

一 問1 空欄に適当な副詞を補う問題。ぼくが弟に対してやましさを持っていることを理解する。正答率60% 「ギクリと」と「ドキリと」、「チクタクと」と「ズキズキと」の違いが分かっていなかった。

問5 多かった誤答はイ。正答率85%

問8 「ぼく」はどのような立場で弟といるのかを確認すること。正答率60%

問10 「ぼく」と弟との関係を読み取り、文章にないものを消去する。正答率60%

二 問5 傍線部前文の理解ができていなかった。正答率10%

問6 傍線部が読み取れていなかった。正答率10%

三 問7 語彙がないと答えられない。正答率60%

【記述問題】

●記述問題の解答の前提は、傍線部を正確に読み取ること。

一 問3 前半部の具体的説明「直也が自転車に乗れるか乗れないで」が無いものが多かった。後半部「確かめる」無しもあった。また、「神さまをためす」という傍線部のことばをそのまま用いているものもいた。正答率70%

二 問2 傍線部の主語を確認し、何が「変えていった」のかを理解する。「解答らんにあてはまるように」とあるのに『人々は～ということ』に合うように答えられていないものが多く見られた。正答率38%

三 問6 説明を求めているのに抜き出しの解答が多く、部分点のものが多かった。多かった誤答「魂が入っている・魂が入っていない」正答率60%

次年度入試 アドバイス

四天王寺中学校入試問題では現代社会の問題に関する文章を出題する傾向があります。小学生の話し言葉にはない少し古い文章語や、抽象的な概念を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。そのために小学生でも読める評論(例えば岩波ジュニア・ちくまプリマー・ブルーバックスなどの新書)、文学的な小説などを意識して読んでください。長編も出題されますので、慣れることで早く読めるようになります。また、新聞記事を読むことで、現代社会の問題にも興味を持ってください。語彙が豊かになるだけではなく知識も増え、大人の文章に親しむことができます。

正しく解くためには、小説、評論のジャンルにかかわらず、問題文はもちろん、問の読み取りは大切で、語彙の有無は大きく作用します。求められていることを限られた時間内に答えることを意識し、時間をはかって解答する練習をしてください。傍線部周辺を参考にして、とりあえず解答を作成していくのではなく、文章を確実に理解しキーワード、キーセンテンスを用いて記述問題に取り組み、練習することで書く力が身につけてきます。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 地理分野(総合問題)	20点	農業・工業と地域の人間生活について、各項目を深く追及する力が身につけているのかを問う。
2 歴史分野(日本史総合)	10点	日本の歴史についての短文を読み、それぞれの時代背景についての理解度を問う。
3 歴史分野(第二次世界大戦)	22点	第二次世界大戦のときの日本についての知識を問う。
4 歴史分野(世界の歴史)	18点	6世紀から21世紀にかけて世界各地で起こったできごとについて(王朝)名や起こった世紀についての知識を問う。
5 公民分野(時事問題)	20点	2015年に起こった日本と世界のできごとを出題した時事問題。

各問題講評(具体的に)

- 1 正解率は60%に達しなかった。石油化学工業や製鉄業の内容、濃尾平野の生活ともに深く掘り下げられた設問に対応できていない受験生が多く、解答を漢字で書けない受験生も多かったのが要因であると考えられる。
- 2 空欄に語句を答える問題は正解率が高いが、短文から時代を読み取り、その時代についての知識を正誤形式で問う問題では正解率が60%程度であった。
- 3 基本的な内容の出題であり、正解率は高かった。2と同様に文章の正誤を問う問題では、正解率が下がる傾向にあった。
- 4 正解率は60%弱であった。中国の国名は割とできていたが、ヨーロッパの国名は正答率が低かった。できごとに関しても中国や日本に比べて、欧米で起こったできごとの世紀の正答率が低かった。
- 5 必ず時事問題を出題しているが、2015年に起こった日本と世界のできごとに焦点を当てて、色々な出来事が起こった地名や人物名を問うが、かなり定着してきている。世界の出来事の正解率は低かった。

次年度入試 アドバイス

【地理分野】

地名、地理用語、都道府県別の産業、他国の産業の特徴などを学習する際に、興味を持ったテーマについて自ら考察を深めるような学習を心がけてください。さらに、日本の地名や都道府県名などは、正しく漢字で解答できるように学習してください。

【歴史分野】

歴史的な語句や年号を答える勉強に特化して暗記に頼ることなく、時代背景をしっかりと学ぶことが重要です。正誤文章の中には別時代の内容の文章が含まれていることも多いので、時代ごとの全体像を把握するような学習をしておいてください。

【歴史分野】

世界の歴史についての基本的な学習が必要である。中国や日本の歴史だけでなく、欧米の歴史もできごとが起こった時期は、何世紀か程度は知っておくこと。近現代史もしっかりやっておくこと。

【公民分野】

本校では必ず時事問題を出している。ふだんから社会の様子、世界の出来事に興味を持って、いろいろな出来事を整理しておいてほしい。政治分野では、憲法、政治(選挙)のしくみなど、理解しておいてください。

【全般】

問われている内容が多岐にわたります。時間内で解答できることが重要です。自信のある分野の問題から手を付けることで、余裕を持って問題の解答ができると思います。語句や年号を暗記するだけでなく、関連する内容を理解するように努めてください。また、歴史・地理・公民の用語や人名・地名などは漢字で書けるよう学習してください。

算数

問題内容

配点

出題の意図

1 小問集合(①②計算)	14点	①四則混合、小数、分数の基本計算が正確にできるか。 ②計算の工夫ができるか。
2 小問集合(①推理②文章題(ニュートン算)②文章題(分配算))	21点	①文中の条件から、どの文字がどの整数を表すかわかるか。 ②③典型的な文章題が解けるか。
3 平面図形(相似)	12点	相似な直角三角形を用いて、辺の長さや面積を求めることができるか。
4 平面図形(線分比・面積比)	12点	三角形において、面積比や線分比を求めることができるか。
5 文章題(旅人算)	14点	円周上を移動する点の位置を把握し、出会うのにかかる時間を計算できるか。
6 文章題(場合の数)	16点	3個のさいころを投げ、ルールに従って得点を決めるとき、もれなく場合の数を数えることができるか。
7 文章題(規則性)	18点	正方形状に並んだ整数の規則性を把握し、指定された数やその和を求めることができるか。
8 空間図形(回転体の体積)	13点	ヒントを利用して、回転体の体積を求めることができるか。

各問題講評

【正答率】(概算)

- ① 90% ② 75% 2. ① 90% ② 50% ③ 60%
- ① 65% ② 45% 4. ① 70% ② 40%
- ① 60% ② 35% 6. ① 45% ② 10%
- ① 80% ② 50% ③ 25% 8. ① 75% ② 5%

【講評】

- 基本問題である。満点を目指そう。②は、1111に着目して、計算の手順を工夫しよう。①②ともよくできていた。
- ① 2行目の条件からBが5、A+Cが10であることがわかる。よくできていた。
②③典型的な文章題である。②はホースで水を入れる速さを、③は初めに3人が持っていた金額を、まず求めればよい。もう少し高い正答率を予想していた。
- 二等辺三角形の対称の軸を描き、できた直角三角形の相似を利用しよう。
- ① 三角形FGDの周りの3つの三角形を全体から引く。よくできていた。
② 三角形FGDと三角形FEDの面積比に等しくなる。
- P、Qの動きをいねいに追いかけて行こう。ダイヤグラムを利用してよい。
- 得点のルールをしっかり把握しよう。目の数がすべて異なるとき、2個同じとき、3個とも同じときにそれぞれ得点が何点になるか最初に整理しておくとい。①はよく頑張っていた。
- 三角形状に並んでいる整数の規則性に気づけばできる。③は対角線(1~50)に平行に数えて4段目の小さい方から5番目の数である。
- ①はよくできていた。「円の面積は正方形の面積の何倍ですか。」との問いに、割り算を逆にしたものがかなりあった。落ち着いて読もう。②は1段ごとにできる円柱または、円柱から円柱をくりぬいてできる立体の底面積を①を利用

して求めている。全問題中この問題の正答率が最も低かった。

次年度入試 アドバイス

計算力はすべての問題の基本であるから、早く正確にできるように練習しておこう。また、計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心掛けて取り組んでおきたい。

合格点を取るために、計算問題は、式をながめて特徴をつかんでから、落ち着いて計算し全問正解しよう。また、小問や、大問の①②は基礎的な問題が多いので、日頃から数多く基礎を練習し、迅速かつ確実に正解できるようにしておこう。

例年、大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができない。問題文をしっかり読んで内容を十分に把握した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイヤグラムを作って利用するなど、その場で解法の糸口を見出せるようふだんから思考力・試行力を養っておきたい。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、裏返したり、折り返したり、対称性を利用したりといった特徴を活用できる目を養っておこう。

立体図形については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体が考えられるようにしたいものだ。必要な断面や展開図も描けるようにしておこう。

本校の過去の問題を見ればわかるように、決して難問・奇問(特に、小学校の学習指導要領の内容を超える分野)を練習する必要はない。標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解くという勉強の姿勢が大切である。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 イネとコムギの発芽と成長	20点	イネとコムギの発芽条件と花芽ができる条件について、グラフから読み取れるかを問うた。
2 金属と酸・塩基との反応	20点	マグネシウムと酸との反応で、水素の発生量をグラフ化して過不足ある場合について問い、マグネシウムと塩基の反応についても問うた。
3 電磁石の性質	20点	身近にある電磁石の性質を確認し、どのように使うことができるかを回路で問うた。
4 フェーン現象のしくみ	20点	猛暑をもたらす要因の1つであるフェーン現象のしくみを、グラフとリード文に基づき、空気塊の温度変化と水の状態変化から考えさせる。

各問題講評

- 20点満点中、平均は13点ぐらいであった。(1)～(4)の基本問題は、比較的良くできていたが、(1)のゲンゴロウをタガメと、(3)のインゲンマメの6の子葉を胚乳と間違えている解答が多かった。(5)～(6)の応用問題の正答率が低く、実験結果やグラフの読み取りができていなかった。特に(6)の図4のグラフは、日長時間(昼の長さ)を表しているが、設問では夜の長さを問うているため、24時間から日長時間を引いて求めなければならない。昼の長さや夜の長さを逆に考えてしまった人が多かった。(6)のリード文や①がヒントとなっているので、きちんと読み取れるようになってほしい。
- 20点満点中、平均は11点ぐらいで、良くできていた問題は(1)、(2)、(5)であった。反対に出来の悪かった問題は(4)、(6)、(7)で、(4)では過不足のある反応なのに、直線的に考えて、グラフの折れ曲がりを取れていない人が多かった。また、基本であるBTBの色の変化にも間違える人が目立った。基本は、知識として確実に身に付けておいてほしい。
- 20点満点中、平均は12点ぐらいで、良くできていた問題は(1)で、出来のよくなかった問題は(3)の②であった。(2)の記述では、主語がないなど文章力で差がついていた。(3)では、①ができていたにもかかわらず、②の回路が並列につなぐなど装置のしくみが理解できていない答案が多かった。
- 20点満点中、平均は13点ぐらいで、(2)の問題は特によくできていた。正答率の高さから、多くの受験生が長いリード文のポイントを的確につかみ、図1のグラフを正しく読み取っていたことがうかがえる。一方、発展問

題である(3)の正答率は低く、主語・述語の不明確な記述文や漢字の間違いが多く見られた。

次年度入試 アドバイス

理科という教科には、大きく4つの分野が含まれています。すなわち、物理、化学、生物、地学の4分野があり、例年ほぼ均等に出题されています。ですから、理科の勉強を進めていくときには、できるだけ偏ることなく4分野まんべんなく勉強してください。

次に理科の対策を挙げておきますので、しっかり準備してください。

- 理科で学ぶ重要な「用語」や「化学式」、「単位」などを正確に理解し、特に用語は正確な漢字で書けるようにしてください。
- 記述題では、理科の用語を的確に用いるとともに、ポイントをつかんだわかりやすい表現が出来るように心がけてください。特に主語が欠落しないなど、普段から書くことに慣れ、文章力を身に付けておいてください。
- 教科書で扱われている実験については、実験操作の意味もしっかり理解し、学校の授業において積極的に実験に参加してください。
- データの処理に関し、グラフの作成や読み取りに慣れ、ある程度のグラフは書けるようにするとともに、計算力をつける学習を大切にしてください。
- 生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけ、なぜそのような現象が起こるかを自分の言葉で表現できるようにしてください。
- 過去の問題を解いて「問題形式」や「解答方法」などに慣れるとともに、時間を計って解答し、問題文をしっかり読み取るトレーニングをしてください。